

鹿角の小中 給食に登場 **ハヤシライスに秋田牛**

鹿角市内の小中学校で、給食に県産黒毛和種のブランド「秋田牛」を使ったハヤシライスが登場した。八幡平小学校(阿部千鶴子校長、89人)では6年生18人が秋田牛の特徴について説明を受けた後、うまみの強さなどが特徴の牛肉に舌鼓を打った。

同市八幡平で黒毛和牛の繁殖と肥育をしており、今回の牛肉を生産した栗山純一さん(52)と県畜産振興課の職員が説明を担当。秋田牛は飼料にコメを混ぜて食べさせていることや、短角種の「かづの牛」とは品種が異なることなどを児童に紹介。栗山さんは「時間と手間をかけて大切に育てている」と語った。

ハヤシライスには最高等級の A5ランクの秋田牛を使用。児童たちはごはんとともに容器によそい、笑顔で味わった。阿部朱杏さんは「香りが良く、うまみをたっぷり感じてとてもおいしかった。自分が住む地域でブランド牛が育てられていると知り、驚いたしうれしかった」と話した。

給食への提供は、認知度向上や消費拡大を目的に、県食肉流通公社などでつくる秋田牛ブランド推進協議会が6日に実施。今回は鹿角市内の1870食分の70㌔を提供した。(本多恒顕)

(令和7年11月21日(金)秋田魁新聞

から一部抜粋)

